

温泉街の路地に並べられた
石彫刻―小松市粟津町で



小松の 石文化

温泉街の中心部を展示会場にした石彫刻の作品展が三十日、小松市の粟津温泉で始まった。四月に日本遺産認定を受けた同市の石文化を、温泉地の魅力とともに観光客に知ってもらおうと、温泉街の商店経営者らでつくる粟津温泉商交会が企画した。十一月十二日まで。

二〇一八年の同温泉開湯千三百年祭に向けたプレイベントとして開いた。宿屋の奉公人同士の恋物語を民謡として歌い継いでいる同温泉が「恋人の聖地」とし

「恋」テーマ 街中に彫刻

て知られることにちなみ、恋をテーマにした石彫刻計二十六点が、総湯横の広場など計四カ所に並んだ。

使われているのは、同市特産の日華石や滝原石、大杉石などで、金沢市民芸術村（金沢市大和町）のワークショップ「石川の石を彫ろう」に通う県内の石彫刻愛好家二十人が八月から制作にあたった。

街頭では恋する男女を彫った像や恋占いのおみくじが引ける彫刻、カップルで座ることのできるいすなどさまざまなアイデアの作品が楽しめる。商交会は来年以降も、作品のテーマを変えながら石彫刻の展示を検討している。（太田博泰）

粟津温泉で
作品展